

鼓峠〈つつみとうげ〉の兵太塚〈へいたづか〉（西紀町）

むかし、明智光秀〈あけちみつひで〉の家来〈けらい〉に、堀兵太夫〈ほりへいだいふ〉という、たいそう強い武士がおりました。光秀が降参した丹波の城主たちと一しょに、氷上郡黒井の赤井城を攻めた時のことです。

かねてから、本当に光秀に心から降参していなかった城主たちは、互いにしめし合わせて、反対に光秀を討とうとしました。

この計画に感づいた光秀は、黒井の戦場から逃げ出して鼓峠に向いましたが、追撃〈ついでぎ〉されてさんざん苦戦しました。その時、兵太夫は、自〈みづか〉ら光秀と名乗り、丹波の大軍を一手に受けて奮戦〈ふんせん〉し、とうとう討死にしました。

今、鼓峠を下る途中、右手の山すそに、「兵太塚」という小さな塚が残っています。これは、兵太夫が、主君光秀の身代りになって戦死した場所だといひ伝えられています。

光秀は、兵太夫のおかげで、命からがら、今の大芋〈くも〉・須知を通り、居城坂本へ、にげかえったそうです。

